

平成二十九年第一回定例会 提案理由説明書（三月二日追加提案）

ただ今上程されました諸議案について説明申し上げます。

一 補正予算の概要

はじめに、一般会計補正予算案について説明申し上げます。

先日、熊本地震からの復興と景気回復、「安心・活力・発展プラン2015」の取組強化などを基本方針とした平成二十九年度一般会計当初予算案を提案いたしました。大分県の未来を創出し、地方創生を強力に推し進める予算編成としたところです。

今回の補正予算においては、国の第二次補正予算等を積極的に受入れ、安心・活力・発展プランの実現を加速するための取組を前倒しで実施するとともに、防災・減災対策や交通ネットワークの充実などの事業費を計上し、景気回復の流れを確かなものとする内容としています。以下、事業の主なものについて説明申し上げます。

（「安心・活力・発展プラン2015」取組前倒し）

まず、安心分野では、待機児童の早期解消を目指し、認定こども園の保育所部分を整備する市町村に助成するため、国の交付金を受入れ、基金の積み増しを行います。また、障がい者に対する福祉サービスを充実させるため、社会福祉法人の施設増設を支援し、グループホームの待機者解消も進めます。

活力の分野では、おおいた豊後牛や県統一ブランド豚「米の恵み」の増頭に向けた生産基盤確立のため、肥育牛舎や豚舎等の整備に対し助成を行います。

また、大分県版第四次産業革命を担う新たな産業として期待している業務用ドローンや、そのモーターにかかる電磁力関連技術の研究開発施設を産業科学技術センターに整備します。

発展の大分県では、教育機能の強化・人材の育成に取り組みます。産学官連携によるクリエイティブ産業を創出する拠点としても活用できるように、県立芸術文化短期大学の芸術デザイン棟の増築等を行います。また、県立学校では、老朽化した校舎等の大規模改造や配慮が必要な生徒に対応したエレベーターの設置を進めます。

さらに、スポーツの振興では、ラグビーワールドカップのホスピタリティ施設としても活用する屋内スポーツ施設について、平成三十一年四月の完成に向けて、本体工事に着手し整備を急ぎます。なお、本体工事や電気、空調設備工事の契約にかかる議案をあわせて提出しております。

（公共事業等）

発展を支える公共事業についても、国の経済対策予算を活用して積極的に進めます。防災・減災では、治山ダムの整備や地すべりの防止対策などを講じていきます。また、交通ネットワークの整備では、庄の原佐野線の整備や臼杵港、佐伯港の岸壁の新設等を行います。

公共事業を実施するにあたっては、できるだけ債務負担行為を設定させていただき、

年間を通じた工事発注の平準化を図ってまいります。

(基金の積み増し)

当面の歳出増については、以上申し上げたとおりですが、今後の財政需要を見据え、安定した財政運営を行っていくため、基金の積み増しを行います。本県の地方創生を強力に後押しする国民文化祭、全国障害者芸術・文化祭とラグビーワールドカップの開催に備え、芸術文化基金に五億円、スポーツ振興基金に十億円を積み立てます。

(補正予算の額)

歳出の減については、中小企業制度資金等についての執行状況を勘案した減や予算執行段階における節約額等を減額します。

この結果、補正額は、三百六十三億九千九百七十三万八千円の減額となり、二十八年度一般会計予算の累計は、六千三十二億五千九百十九万六千円となります。

以上が、一般会計補正予算の概要であります。

このほか、特別会計では、公債管理特別会計など十の会計で合わせて、九億二千七百四十六万一千円を減額するとともに、企業会計では、病院会計で九億六千五百六十六万四千円を増額しています。

以上をもちまして、提出しました諸議案の説明を終わります。

何とぞ、慎重御審議のうえ、御賛同いただきますようお願い申し上げます。